

レファレンス

コーナー

東南アジアの大都市論

高橋宗生

発展途上国において生じたこの半世紀間の急速な都市化に伴い、途上国各国の大都市をテーマにした研究が進展してきた。従来この分野においては、農村から都市への人口移動や、スラム、インフォーマル部門に代表される都市の貧困に焦点を当てた研究が多く、工業化を伴わずに都市人口が急速に膨張することによって生じた「過剰都市化」現象に多くの注目が集まっていた。

しかし、一九八〇年代後半以降、グローバルな産業・金融・情報ネットワークの拡大に伴う大都市の構造変化と世界経済との関連性を扱う研究が増えるとともに、大都市周辺の農村が次々と都市化する現象が新たな研究の対象として取り上げられるようになった。「世界都市化」論と呼ばれる前者の研究においては、都市の構造や機能が国内経済だけでなく世界経済との国際的関連や、その結果として生じる都市のヒエラルヒー構造のなかで捉えられ、経済地理学や空間経済学の分野から分析が行われた。一方、後者は都市形態の側面に注目し、「拡大メガ都市圏」論

を展開した。

大都市に関する研究は他にも都市工学、建築学、人口統計学など様々な専門分野で実施されている。ここでは、地域を東南アジア、主題を社会科学分野に絞って、最近二〇〇年の主立った文献をみていきたい。

まず、いずれも大阪市立大学経済研究所が監修を行った、田坂敏雄編著『アジアの大都市「1」バンコク』（日本評論社、一九九八年）、宮本謙介・小長谷一之編著『同「2」ジャカルタ』（同、一九九九年）、生田真人・松澤俊雄編著『同「3」クアラルンプール/シンガポール』（同、二〇〇〇年）、中西徹・小玉徹・新津晃一編著『同「4」マニラ』（同、二〇〇一年）の四巻が代表的な研究成果としてあげられる。これは同研究所が一九八五〜九〇年に東京大学出版会から出版した『世界の大都市（全七巻）』シリーズに続く成果で、その一九八九年出版の第六巻ではバンコク、クアラルンプール、シンガポール、ジャカルタの四大都市を研究対象にしていた。

二〇〇二年出版の『北京・上海』で終了するこの『アジアの大都市』シリーズは、メガ都市の歴史像と立体的な解き明かすことに重点を置き、都市現象をグローバルな要因とローカルな諸条件が織りなすものとしてとらえている。一〇章〜二二章からなる各巻は、歴史、経済、都市問題行政・政治を網羅する論文で構成され、十分に読み応えがある。各論点

をより深めるには、全一〇号から成る同研究所発行の『アジアの大都市 News Letter』（一九九五〜二〇〇一年）が役に立つ。また、雑誌『アジア経済』の第四一巻第二号、七号（二〇〇〇年二月、七月）に『バンコク』『ジャカルタ』編の書評が各々掲載されているので併せて参照されたい。

このシリーズによると、東南アジアでは二〇二〇年までに人口の五六％が都市地域に住み、都市人口の六六％が拡大バンコク首都圏、クアラルンプール多角的都市圏、シンガポール成長トライアングル、ジャバタベック（ジャカルタとその周辺地域）都市回廊、拡大マニラ首都圏、五つのメガ都市圏に集中すると予想している。それらの大都市圏を網羅した Lo, Fu-chen and Yue-Man Yeung eds. *Emerging World Cities in Pacific Asia* Tokyo: United Nations Univ. Press, 2006 は、先に述べた『世界都市化』論と『拡大メガ都市圏』論の視点と議論内容を知る上で有用である。松原宏編著『アジアの都市システム』（九州大学出版会、一九九八年）は、クアラルンプール都市圏がアジアやマレーシア国内で如何に階層付けされるか、東京やソウルと比較する上で興味深い。生田真人著『マレーシアの都市開発—歴史のアプローチ—』（古今書院、二〇〇一年）では同都市圏の形成の実態が探られるとともに、国内外の都市圏との比較分析がなされている。

「過剰都市化」論で取り上げられることの多い首都圏への移住・定着の実態に関しては、古屋野正伍編著『東南アジア都市化の研究』（アカデミア出版会、一九八七年）がバンコク、ジャカルタを対象にした調査結果を収録している。マニラ、バンコク、ジャカルタのスラムの実態調査報告としては新津晃一編著『現代アジアのスラム—発展途上国都市の研究』（明石書店、一九八九年）がある。

さて、各大都市の発展の方向性を探る上で、その歴史的・文化的固有性を知ることが不可欠と思われる。最後に大都市の歴史をテーマにした論文を収録した書籍を三点紹介する（「」内は該当する章と内容）。

①友杉孝編著『アジア都市の諸相—比較都市論にむけて』（同文館、一九九九年）「第一章、一九世紀以降のバンコク形成史。第三章、一七世紀のバタヴィア（現ジャカルタ）建設。」

②斎藤照子責任編集『東南アジア世界の再編』（岩波講座東南アジア史／池端雪浦「ほか」編集委員、第五巻）（岩波書店、二〇〇一年）「第九〜二二章、一九世紀のバタヴィア、バンコク、シンガポール、マニラ。」

③藤巻正巳・瀬川真平編著『現代東南アジア入門』（古今書院、二〇〇三年）「第四章、蘭領東インド期以降のバタヴィアの都市形成史。」

（たかはし むねお／アジア経済研究所研究支援部）